

第81期棋聖戦 奥出雲町で開幕戦

〽羽生善治棋聖・深浦康市王位が来町〽

奥出雲町発足五周年を記念して、第八十一期棋聖戦の開幕戦第一局が、亀嵩温泉「玉峰山荘」で六月八日行なわれました。



▲羽生棋聖による開幕第一手



▲和やかな雰囲気での訪問

羽生棋聖と深浦王位が表敬訪問

八日の対局開幕に先立ち、七日、羽生棋聖と深浦王位が役場仁多庁舎を訪れました。庁舎前では、女性職員から花束を受け取り、井上町長をはじめ多くの職員に拍手で出迎えられました。

その後、応接室において、今回の棋聖戦大盤解説をする井上慶太八段、里見香奈女流名人・倉敷藤花の二人、棋聖戦の正立会人を務める米長邦雄日本将棋連盟会長を交え、奥出雲町の歴史や文化についての話をするなど、終始和やかな雰囲気での訪問となりました。

第一局 緊迫の第一手

対局の舞台となった玉峰山荘こすもすの間には、立会人の米長会長をはじめ、約十五名の関係者が緊張の面持ちで始まりのときを待ちました。はじめに深浦王位、程なくして羽生棋聖が入室し席に着くと、室内は一気に張詰めた空気になりました。

両棋士とも、前日の穏やかな表情から、戦いへの覚悟の表情に一変し、対局は、午前九時、羽生棋聖の先手で始まりました。

軽妙なトークで大盤解説

大広間では、井上八段と里見女流名人による大盤解説会が行なわれました。

二人の軽妙なトークと、わかりやすい解説に、この日訪れた百五十人の来場者は熱心に聴き入っていました。

また、解説会後半には、里見女流名人の妹で、女流アマ棋士の里見咲紀さんが解説に参加し、会場を盛り上げました。



▶大盤解説会の様子
(右から井上八段、里見女流名人、里見女流アマ)

羽生棋聖が勝利

白熱の対局は、十八時半頃百三手で羽生棋聖が深浦王位を下し、開幕戦を制しました。また、対局をリアルタイムで観戦した来場者は、とても満足した表情でした。

今後、第八十一期棋聖戦は、第二局を兵庫県に会場を移して、全五局開催されます。

小学生が通学路の安全確認



▲熱心にメモをとる児童

小学生と地元住民が道路を歩いて危険箇所や安全確認を行なう「交通安全総点検」が五月十七日行なわれました。

横田小学校五年生二十二名と地元関係者、警察、行政関係者が二つのグループに分かれ、横田庁舎周辺の道路約一キロを歩き、壊れているところがないか、車イスに乗ったとき気になる段差がないかなどを実際に車イスに乗って確認するなどしました。

壊れているところや、気になるところを見つけると、子どもたちは細かくメモを取っていました。



▶意見を出し合う児童たち

現地点検が終わると、横田庁舎に戻り、「道路にゴミやタバコの吸殻が落ちていた」、「街路樹の枝が下がっていた」、「歩くときに危ない」など、現地で確認したことを積極的に意見を出し合いながら地図に書き込んで整理しました。

参加した行政関係者は、大人では気付きにくい子どもたちの視点からの意見に感心していました。

今回出た意見・内容は、今後、警察、行政機関で課題解決に向けての検討材料とされます。

子どもたちがアユを放流

斐伊川で水辺の教室



▲アユの成長を願って放流する子どもたち

魚が住めるきれいな川を守ろうと横田公民館と斐伊川漁協横田支部では、昭和六十三年から毎年水辺の教室を開いています。

五月十二日には、横田庁舎裏の斐伊川河川敷で横田幼稚園と横田小学校三年生約六十人が参加し、アユの稚魚五千匹を放流しました。

勢いよく飛び跳ねるアユに苦戦しましたが、「おおきくなあれ」とアユの成長を願いながら放流しました。

子どもたちは今後、斐伊川の水質検査や宍道湖の清掃などを行い、環境について学んでいきます。

一味同心塾 田植え体験交流会



昔ながらの手植えによる田植え体験交流会が、五月二十九日、料理研究家の中村成子先生が館長を務める「一味同心塾」前の水田で開催され、町内をはじめ東京、広島、隠岐から約百五十人が参加しました。

この体験交流会は、地元「米づくり実行委員会」が、都市住民との交流や食の安全について考えようと主催、「食と農」の交流拠点とする同施設を会場として開催し、今年で九回目を迎えました。

はじめに田の神様「サンバイさん」に豊作を願う神事を

行なった後、真地自治会の内谷田植え囃子保存会のメンバー五十人による華やかな田植え囃子が披露されました。

米づくり実行委員会の安部清会長は「地域の皆さんのご支援を頂きながら、今年も立派な稲が実ることを祈っています」とあいさつされました。

また、中村館長から「田植えを通して、食べるということ暮らしの中にどのように活かしていけば良いかを考え、米を手作りできる田んぼを守り、未来につなげていくことがこれから大切になっていくと思います」と話されました。

続いて、「早乙女花」とよばれるタニウツギの花で飾られた三ツツの水田に参加者たちが入り、地元の方の指導を受けながら、丁寧に手植えを行ないました。

今後米づくり実行委員会の皆さんの協力により水田の管理を行い、秋の収穫祭で再び体験交流を行なう予定です。